



稲垣 裕司 先生

略歴

1990年 京都薬科大学薬学部卒業
1992年 京都薬科大学大学院薬学研究科修士課程修了
2004年 徳島大学歯学部卒業
2004年 徳島大学医学部・歯学部附属病院 助手
2007年 徳島大学医学部・歯学部附属病院 助教
2010年 博士（歯学）徳島大学
2014年 日本歯周病学会専門医
2014年 米国インディアナ大学医学部 研究員
2015年 徳島大学大学院医歯薬学研究部 助教
2018年 徳島大学病院 講師

内服による歯周病へのアプローチ

徳島大学病院 歯科・歯周病科
稲垣 裕司

歯周病は歯面や歯周ポケットに形成されるプラークが主な原因となって引き起こされる感染症で、歯周組織内で過剰な免疫反応と炎症反応が進行した結果、歯周組織が破壊される疾患である。しかし近年、ペリオドンタルメディシン（歯周医学）の発展によって、歯周病が単に歯の脱落を引き起こすだけの局所疾患ではなく、様々な全身疾患の発症や進行に関連することが明らかになり、超高齢化社会を迎えた現在、歯周病の予防と治療の重要性がますます高まっている。

歯周治療の原則は、歯周病を引き起こした原因と増悪させたリスク因子を解明して除去することであり、主因である細菌性プラークのコントロールは全ての治療に優先される。一方、治療の様々な段階において、急性炎症の軽減や治療後の感染防止を目的として抗炎症剤や抗生物質が局所的あるいは全身的に投与される。このように歯周治療でも薬物療法がしばしば行われるが、抗生物質の長期的な服用は菌交代現象や耐性菌出現のリスクがあり、また抗炎症剤も長期的に服用すると胃腸障害などの副作用を生じる。そこで、サプリメントのように毎日摂取できて宿主のロバストネスを最適化し、その結果、歯周病に対して予防効果あるいは治療効果が得られる低リスクなものがあれば有意義であろう。

漢方薬は通常2種類以上の生薬を組み合わせた配合薬であり、複数の成分が含まれているため薬効が多様で、西洋医学でいう副作用のリスクは低い。口腔内疾患では主に口内炎、口腔乾燥症、舌痛症、味覚障害、顎関節症などの症状に対して漢方製剤が処方されるが、歯周治療で用いられることは少ない。今回のセミナーでは骨再生・骨代謝をターゲットにした大豆イソフラボンと漢方薬のひとつである甘露飲エキスについて紹介する。大豆イソフラボンは女性ホルモンであるエストロゲンに似た構造を有し、細胞膜上のエストロゲン受容体と結合して穏やかな作用を示すことが報告されており、カルシウムと組み合わせて内服することにより歯槽骨の骨密度増加と骨吸収抑制の両方に働くことが期待できる。一方、甘露飲エキスは9種類の生薬から抽出した漢方製剤で、口内炎、舌の荒れや痛み、歯周炎に効能・効果があるとされている。そこで歯周炎モデルラットを用いて甘露飲エキスの歯槽骨吸収抑制効果を検討したところ、有意な骨吸収抑制が認められ、また細胞実験においてもRANKL誘導性の破骨細胞分化が有意に抑制されたことから、甘露飲エキスは破骨細胞の分化を抑制することによって歯周炎の歯槽骨吸収を抑制する可能性が示された。

歯周病の予防と治療においてブラッシングを中心とした日々のプラークコントロールは重要であるが、内服で宿主のロバストネスを最適化して歯周病に対し予防や治療効果が得られるようなアプローチが今後期待される。今回のセミナーでは大豆イソフラボンや甘露飲エキスが歯周病のセルフケアやプロフェッショナルケアの一助になるか、その可能性について述べたい。